

---

平成22年 第1回 対馬市議会定例会会議録(第4日)

平成22年3月11日(木曜日)

---

議事日程(第3号)

平成22年3月11日 午後1時02分開議

日程第1 市政一般質問

---

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

---

出席議員(21名)

1番 脇本 啓喜君	2番 黒田 昭雄君
3番 小田 昭人君	4番 長 信義君
5番 山本 輝昭君	6番 松本 暦幸君
8番 齋藤 久光君	9番 堀江 政武君
10番 小宮 教義君	11番 阿比留光雄君
12番 三山 幸男君	13番 初村 久藏君
14番 糸瀬 一彦君	15番 桐谷 徹君
16番 大浦 孝司君	17番 小川 廣康君
18番 大部 初幸君	19番 兵頭 栄君
20番 中原 康博君	21番 島居 邦嗣君
22番 作元 義文君	

---

欠席議員(1名)

7番 阿比留梅仁君

---

欠 員(なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長	橘 清治君	次長	渋谷 雄司君
参事兼課長補佐	長野 元久君	副参事兼係長	國分 幸和君

---

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部 能成君
副市長	大浦 義光君
副市長	齋藤 勝行君
政策補佐官	松原 敬行君
地域再生推進本部長	永尾 榮啓君
観光物産推進本部長	本石健一郎君
総務企画部長	平山 秀樹君
総務課長	桐谷 雅宣君
市民生活部長	近藤 義則君
福祉保健部長	扇 照幸君
農林水産部長	比田勝尚喜君
建設部長	斉藤 正敏君
水道局長	阿比留 誠君
教育部長	大石 邦一君
美津島地域活性化センター部長	長郷 泰二君
豊玉地域活性化センター部長	中村 敏明君
峰地域活性化センター部長	大川 昭敬君
上県地域活性化センター部長	武田 延幸君
上対馬地域活性化センター部長	川本 治源君
消防長	阿比留 健君
会計管理者	糸瀬 良久君
監査委員事務局長	主藤 繁明君
農業委員会事務局長	永留 秋廣君

---

午後1時02分開議

○議長（作元 義文君） こんにちは。報告します。阿比留梅仁君より欠席の届け出がっております。

開会に先立ちまして、理事者側から議案名の目次について訂正の申し出がありましたので、議長がこれを許可しております。その内容について、理事者側より説明を求めます。総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山 秀樹君） 一昨日、提案理由を説明いたしました議案第50号、市有財産の無償貸与については、さきに議長に提出いたしました資料では市有財産の無償貸付についてと記載しておりました。議案名どおり「貸与」が正しい文言でありまして、議事日程等関係資料を「貸付」から「貸与」に訂正していただきますようお願いをいたします。御迷惑をおかけいたしました、まことに申しわけございませんでした。よろしくお願いいたします。

○議長（作元 義文君） お聞きのとおりでありますので、配付しております議事日程第2号及び委員会審査付託表、議案第50号の議案名末尾を「貸付」から「貸与」へ訂正を願います。

ただいまから本日の会議を開きます。

日程に入ります前に、報告させていただきます。

昨日は、テレビ報道等によりますと、対馬の気象観測史上、過去約100年間で例のない大雪とのことであります。対馬全域の道路事情等により、昨日、議長判断により休会といたしましたことは、議員各位の御理解をいただいているものと思います。また、この大雪で事故が発生しなかったことも、幸いに思っているところであります。

次に、会期内の日程の変更が生じておりますので、これから議会運営委員会に日程等の調整について諮問をしたいと思っておりますので、議会運営委員長、よろしくお願いいたします。

傍聴者の皆様には御迷惑をおかけしますが、しばらくお待ちいただきますようお願いいたします。

暫時休憩します。

午後1時04分休憩

.....  
午後1時22分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

議会運営委員会に諮問した結果について報告します。

お手元に配付のとおり、昨日の休会により、会期内の日程を変更しております。

---

### 日程第1. 市政一般質問

○議長（作元 義文君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は、午後から開会のため、3名を予定しております。届け出順に発言を許します。  
18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） こんにちは。きのうは本当に大変な大雪で、対馬では本当に上から下まで珍しい雪に恵まれて、またよかったか悪かったか、私にとってはわからないのですが、といいますのが、きょうが私の誕生日でありまして、きのうの雪で私に天が恵みを与えてくれて、

一般質問を22年の第1回目をやるということで、まして大雪でしたから、私の名前が初幸ですから、またそれでいよいよ解釈しているつもりです。

2つの質問をさせていただきます。

それでは、信念をモットーに、強く正しく美しくをモットーにしますので、市長、市民、島民のために一生懸命要望しますので、よろしくお願いします。

まず1問目、通告書に従いまして、お伺いします。

対馬から福岡までの運送体制について、現在、対馬からは厳原港から8時50分発、午後の15時25分発が出航し、比田勝港から15時5分発が出航、これは九州郵船のダイヤであります。同じ厳原港から旧大川海運、今は壱岐対馬フェリーとなっておりますが、ここから15時10分発が出航しております。

対馬は離島です。スルメイカ、ヤリイカ、ヨコワ等などが少し多くその日に魚の水揚げがあった日は、朝の出航便が九州郵船の8時50分発だけです。旧大川海運の「やまと」が、会社の都合により20年の11月に売船をされ1便体制になったから、鮮魚の集荷はされても、朝の1便には乗り切れず、午後の便までじっと待機をしなければいけません。

当然、その朝の1便に乗れなかった鮮魚類は、スルメで1箱に400円から500円ぐらい、高級なヤリイカ等は1箱に1,000円ぐらい単価が下がるそうであります。それだけではなく、せっかく厳原港から乗れても壱岐でおろされ、唐津経由で福岡市場等へ出荷されるケースが頻繁に起きております。一度乗船した車が壱岐でおろされ、唐津経由でわざわざ時間と高い油を使い、経費をかけて市場へ運ぶ、このようなことが本当に許されることでしょうか。

今まさに対馬の漁民が非常に困っているとき、せんだって壱岐対馬フェリー会社が日本で初めてのアルミ3胴船カーフェリーの導入計画が、壱岐日々新聞等で報道をされました。この3胴船は34ノット、時速63キロの高速船だそうです。乗客も484名、乗用車なら63台も一度に運べるそうです。船建造費は40億円、1割の4億円の頭金を壱岐市、対馬市の両市で負担をし、残りは国の船舶公団が低利融資をするとのことですが、市長はどのようなお考えでしょうか、お尋ねをいたします。

2つ目、浮き桟橋の新設について、対馬は言わずと知れた水産業の島です。対馬島内の中でも、浅茅湾という本当に独特の自然帯に囲まれ、東西に潮が流れ、潮通しのよい漁場があります。その浅茅湾を上手に活用し、古きにわたり魚類養殖を長年やっているのが美津島町の西海漁協組合です。魚類養殖の盛んなときは、ハマチ、タイ、ヒラマサ等を中心に養殖がされておりましたが、時代の流れが変わり、現在は今一番脚光を浴びているマグロの養殖が中心となり、朝早くからマグロのえさ出しに、またマグロの出荷に、生産者も職員も毎日大忙しのようにあります。

そのように、組合員にとってはなくてはならない浮き桟橋、組合員の利用度から見ても、今の

浮き棧橋は本当に小さ過ぎ、両側に1隻ずつしか作業船は係留できず、えさを積み終わるまでは次の船は沖合で待機をしております。組合の冷蔵庫からフォークリフトで浮き棧橋まで、えさを1回に50箱ぐらいを行ったり来たりして作業をされております。

1日のマグロにやるえさの箱数は現在でも2,000箱ぐらい、これから秋にかけては魚が一番成長する時期、えさの量も2,500箱から3,000箱ぐらいに増えるそうであります。1隻のえさの積み込みに時間がかかり過ぎ、最後の作業船が積み込みが終わるときは昼近くになるときもあるそうです。この小さいのと老朽化をしている美津島町西海漁協の浮き棧橋を、えさを積んだまま浮き棧橋まで車ごと行け、大型の浮き棧橋の新設をすることができないか、市長のお考えをお尋ねいたします。

よろしく申し上げます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） こんにちは。答弁に入る前に、誕生日おめでとうございます。

2点、大部議員のほうから御質問がありました。

1点目は、水産物の九州本土への輸送に関する問題であります。大変、20年11月からですか、航路事業者のほうが減便体制をとられてから、特にイカの盛漁期に乗れない、もしくは壱岐のほうから唐津のほうへ積み替えて輸送しなければいけないという実態があっている、このことについては以前から議会のほうでも御指摘があり、私ども行政としましてもこの問題は大きな問題だということで、壱岐対馬の航路対策協議会のほうで、航路事業者も交えて協議をずっと進めてきたところであります。

そういう中で、壱岐対馬フェリーさんのほうが、新聞報道等で大部議員がおっしゃったような導入計画を持ってあるということが出されました。これについては、私どもの対馬市に対しても、事業計画の説明というものもございました。それは、航路対策協議会における説明をいただいたところであります。

まず、この問題ですが、公設民営、いわゆる上下分離方式による高速カーフェリーの導入という提案でございました。市は、前もって航路対策協議会の前に、昨年12月25日に事業計画概略、そのときは概略の説明でございましたけども、説明があつて、2月の4日に先ほど言いました対馬市の航路対策協議会が終了後に、航路事業者のほうから各委員に提案をしていただいたところであります。

内容としましては、2,000トン級の先ほどおっしゃいましたように3胴船、アルミニウム製であります。旅客数とか速力等についてはおっしゃられるとおりでありまして、484名、それから乗用車で63台、速力が34ノットと、巖原一博多、これは当然壱岐を経由するわけですけど、2時間40分で1日2便往復するというところでございました。

先ほど大部議員がおっしゃられたように、壱岐市、対馬市が2億円ずつ負担すれば、航海が可能であるかのように新聞報道では書かれておりましたが、実際は建造費40億円に対し両市が2億円ずつまず当初負担し、残りの36億円についても、両市が独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構というところから長期借入れを行い、船舶を建造することとなります。

また、両市が建造した経費については、航路事業者との間で船舶のリース契約を締結し、その徴収する使用料から先ほど言いました機構のほうへ返済することとなります。

仮に、新規参入ということになれば、一時的に航路が確かに充実し、住民の利便性向上、それから車両航走においても、幅広い輸送体制が確保されることとなります。しかし、近年、九州郵船株式会社では利用者の減少、燃油価格高騰の原因により、減便等を行っており、すべての航路がこのまま維持されることは到底考えられず、過当競争による減便、撤退、または事業者の共倒れが懸念されます。

さらに、昨年3月に取りまとめられた国の離島航路補助制度改善検討会の報告の中にも、先ほど言いました公設民営化の推進が掲げられておりますが、このことは厳しい経営状況にある離島航路事業者にかかわって地方公共団体が船舶の建造、または買い取りを行うものであり、決して新規参入を促して競争を促進するものではなく、今回の提案とは乖離するものであるというふうに私は解釈しております。

したがって、現段階で市としては、提案事業者の事業計画や収支見込み、それから先ほど言いました鉄道運輸機構の考え方等も検討した結果、受け入れは難しいとの判断を行ったところであります。

しかしながら、水産物の本土輸送につきましては、対馬市漁業協同組合長会や鮮魚、物流などの島内陸上輸送業者との調整を図るとともに、同じ航路を利用している壱岐市の漁業協同組合長会との意見交換の場を設定することも考えているところであります。

今後においても、国、県を始め、航路事業者の水産業界関係者との協議を精力的に行いたいというふうに考えていますので、御理解を賜りたいと存じます。

次に、美津島町西海漁協の浮き棧橋の問題でございますが、広さが利用度から見ても手狭で老朽化が目立つと、新しく製作して、ある意味設置できないかという趣旨の御質問だというふうに理解します。

現在の浮き棧橋は、平成元年3月に設置されたもので、ほぼ21年が経過しようとしております。浮き棧橋の減価償却の耐用年数は50年と長く、まだ半分にも達していませんので、老朽化が目立つということですが、耐久性に関しましては心配ないものというふうに思っております。

しかしながら、先ほど大部議員がおっしゃられたように、近年から始めたマグロ養殖も軌道に乗り、平成20年には昼ヶ浦地区、竹敷地区など、合わせて270トンの水揚げ量があっており、

繁忙期の折には現在の浮き棧橋が利用できず、時間待ちする待機漁船が発生するなど、支障を来していることも聞き及んでいるところです。

このことから、現状の浮き棧橋が幅10メートル、長さが15メートルの広さであり、島内の同様施設と比べましても若干小さ目でありますので、利用勝手が悪いということは十分に考えられますが、耐用年数などを考慮すると、新たな浮き棧橋を設置するためにはクリアしなければならない課題があろうかと思えます。

市といたしましては、港湾を管理する長崎県対馬振興局に、竹敷港の浮き棧橋の早期整備についての要望書を昨年11月に提出をいたしました。また、2月には、県管理の道路、河川、港湾、漁港に関する要望書の中にも、早期実現に向け取り組んでいただくようお願いをしているところであります。

しかしながら、竹敷港は完了港となっているものの、整備途中で中止している物揚げ場及び用地の完成を図るには、諸事情等を解決しなければならず、新しく計画し実施するには時間を要することになるかと思われまます。

この問題につきましては、今後とも地元地域と一体となった協力体制のもと、引き続き長崎県と協議を重ね、早期実現に向けた強い取り組みをしていきたいというふうに考えておりますので、御理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） まず、市長、第1点目の3胴船の話ですが、今、実際に現実的に対馬島民が一番困っているのが、先ほどから申すように、船の積み込みなのですよね。福岡魚市あたりさんが一番心配されているのが、魚がとれた日なんか、やっぱり市場としてはニュースが早いですから、情報はつかんでいるわけですよ。その魚の単価よりも、まず何車乗れるかというのが一番市場の担当者は気にされているわけなのです。きょうは何台乗れるかというのをですね、それをまず心配される。入札の単価どころではなくて、車に例えば5台あったら5台乗れるかとか、3台乗れるかとかいうのをいち早くキャッチをしなければいけないというのが今一番の悩みだそうです。

それと、過去に一番タイミング的に悪かったのが、こういうこともあるのですよ。大川さんが先ほど言うように1便体制になっていますから、1便に乗れなかったやつはどうしても2便になっているではないですか。あるとき、金曜日の集荷で、金曜日に集荷したら土曜に売りに行くのですが、土曜日が欠航したのですね。土曜日が欠航して、日曜日休み、市場は当然休みではないですか、月曜日が国民の何かの日で休みだったのです。火曜日が振り替え休日で、休みではないですか。結果的に5日間休みになって、車でそのまま寝ている魚があるわけですよ。名前は言えませんが、運送屋さんはそれでばちかぶって、損害を幾らか払ったりとか、払ったからとい

って、組合員にまともに手元に来るわけないんですけど、そういう例が何回となく出ているわけなのですよ。

それとか、ドックに大川が入ったときは、完全に積み切れないですよ。私たちも大型25トン車を持っていますけども、比田勝に走るわけですよ。わざわざ比田勝まで行くわけですよ。僕は船越ですけども、厳原から集荷された魚を比田勝まで、トラックで行ったら2時間ちよつとかかりますものね。やっぱり乗用車みたいにかないものですから、そういうこともあるし、比田勝から乗れるかといったら、そのときもやっとかつと無理に乘せるというような態勢で、やはりせっかく漁師さんがとった魚がまともに売れていないというのが現状ですから、何とか市長、ここを先ほど話を聞いておったら、いろいろな協議を重ねてやっていくということですが、対馬組合長会でも自分たちで、これは現実には乏しいでしょうけども、中古の輸送船を買ってでも走らせようかというような、組合長会でも話が出ているということもお聞きしていますし、今は根津さんが組合長会でトップにおられますけども、そういう話もお聞きしているような状態ですから、もう少し対馬市として前向きに、前向きと言ったら失礼でしょうけど、もうちょっと組合員、漁民が聞いておっても期待が持てるような話というのはできないものでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 新聞報道に基づく御質問でしたので、新聞報道の中身について、それから提案を壱岐対馬フェリーさんから受けた提案に基づいて、それに対する市の考え方というもので回答を先ほどはさせていただいたつもりです。今、大部議員がおっしゃられるように、そのような状況が年末年始のこの時期に起こっているということは十分に理解はしております。

なかなか運輸機構の制度を利用して、現在、博多と対馬間を運航しております航路事業者に関しましては、機構の共有船方式という方式になりますが、皆さんがいずれかの船で共有船方式で導入をされてあるのが現時点の状況です。そういう中で、共有船方式を改めて使うというのが、機構のほう为正直言ってこれは難色を示しております。当然、船にもよりますけども、返済期間中でございます、融資分をですね。機構のほうは、融資が当然機構のほうに返ってこない、焦げつきますと、これは税金でございますので、大きな問題だという思いが機構のほうにあるものですから、新たな計画を博多—対馬間において事業計画を組み立てる場合、どうしても機構の意向というのが色濃くなってくるということで、先ほどのような回答をしたところです。

なお、再質問の中の後段の部分で、漁協が中古のものを購入しようかという話もあるということでございますが、もし組合長会のほうでそのような話がまとまるようであるならば、私は今の対馬の輸送の状況を打破していくためには、行政としての支援はやぶさかではないというふうに自分自身は思っております。

ということで、1回目の回答につきましては、上下分離の共有船方式についての考え方を語ら



せていただいたというふうに理解していただければと思います。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） 市長の答弁でよくわかりますが、やはり対馬組合長会、漁協組合で中古船を持ってやるということも、計画中というわけではなくて、そういう計画もあるということですけども、これもやっぱりなかなか難しい話だと思うのですよね。組合とこういう船を持つということになればですね。市長の言われるように、組合で持つか、市で壱岐対馬フェリーの計画を進めてもらうようにしたほうがいいものか、私もよく検討してみないとわかりませんが、できれば本当にこういう形がとれるなら、やはり壱岐日々新聞がうたっておるような3胴船を入れてもらえるというのが本当は対馬島民に助かると思うのですよ。

というのも、さっきから言うように、中古船で持ってきて、それをやっていくというのは、組合長会でこういう話をしたらしかられるかもしれないですけど、私は個人的には不可能に近いのではないかと思うのですよね。難しい話だと思うのですよ。せっかくこういう話があるわけですから、何とかそこをクリアできるような方法はないものですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私も、機構のほうと、上京の際に私が出向いて協議をさせていただいたところです。そういう中で、やはり先ほど言いますように、機構の考え方というのがなかなかクリアできないと。向こうも本当で今2隻に融資をし、それぞれ返済をしてもらっている段階です。だから、そちらが滞るような状況が生まれないのであれば、それは構わないのだというふうな考え方です。

だから、これで乗用車で63台ですか、というふうな能力があるわけですけども、今現在の最盛期の壱岐での積みかえ実績というのだけを見ますと、365日のうちの14日、それで延べ32台という数字をこちらでは把握をさせていただいております。多い月で1月に5日間の15台というのが、積み替えを壱岐でされているような状況です。

先ほどの話では、乗れない状況も当然積み替え以外にもあるということではありますが、どうしても先ほどの回答で申し上げましたように、九州本土と対馬との航路をどのように、今後どう考えていくのかということをややはり機構は言っていると思っています。共倒れしたとき、島民の人の足を本当にどうしていくのだと、そのことまで考えていただかないと、機構としては乗れないのですということまでおっしゃられてあります。

そうなった場合、では壱岐はこの話には乗らないということで、新聞報道にも出ておりましたけども、明言をされております。では、40億円という金を、私ども対馬市が最終的にずっと返していくことになろうかと思えます。その体力が自分らに、対馬市にまたあるかという問題も出てくるかとも思えます。

今、離島航路の問題については、県のほうの取り組みとか、いろんな国のほうの考えとか、いろいろ交錯している部分があります。いろんな手法もあるのかとは思いますが、一番大事なのが、先ほど何度か言いましたように、九州本土と対馬の間の足を今後ともなくさないようにしていくということを国はもっぱら考えているということで、御理解をしていただきたいなと思っております。

なお、漁協だけでその船をどうのこうのとは、当然考えてはおりません。その場合、行政のほうも色濃くかかわっていかないといけないと思っておりますし、ただ車をあれするだけではなくて、不定期航路であれば12名の旅客も乗せられるとも聞いております。そのあたりを加味しながら、漁協の中で運営をやっているかという話になるならば、それは今の航路とは全く別話になりますので、機構のほうの考え方はまた別ですよという思いは持っておりますが、行政側から第三セクで物事をつくり込んでいくという時代は、若干今の世の中の流れとは錯誤しているのではないかというふうにも思っております。

だから、先ほどから言いますように、行政としての支援はできるとは思いますが、表に立ってやっていくということにはなかなか難しいのではないかなという思いを持っております。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） 先ほど言うように、壱岐市は受け入れをしないような答えを出したということはお聞きしているのです。ただ、対馬市民として、私たちが市議として、市会議員の一人として、壱岐市がそんなに簡単にそういう答えを出す、ある意味では壱岐は福岡一壱岐間は4便出ているのですよね、九州郵船が。私が一個人として考えられないのが、壱岐はそんなに対馬みたいに苦しむことは少ないと思うのです。

あるところでは、話が飛びますけども、ORC関係では対馬市は黒字でも、補助をやったり壱岐市ORCに関しては出したような形をとったのではないですか。自分たちは都合のいいときはぱっと答えを出して、自分に被害が少ないときは受けませんよという答えを出す。壱岐市の赤字のやつは、対馬市は空港は黒字でも、やっぱり補てんしながら何とかやっ払い、同じ長崎県民だということで、市議会もぶつぶつ言いながらも認めたという状況もあるのですが、そここのところ市長よく考えながら、本当に対馬市と壱岐市が同じ離島でありながら、どちらが一番ひどく迷惑をし、そして支障を来しているのかということを考えて、今後、無理という難題課題は多いと思うのですが、そここのところ壱岐と同じような考えだけはしないで、前向きに進んでいただきたいと思っております。ちょっとだけ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 確かに、壱岐と九州本土の間のフェリー、船便というのは多いという状況は当然です。その分、飛行機の便がないというふうな状況で、壱岐のほうは壱岐で航路対策協

議会が当然ありますが、すごい意見が、やっぱり激しい意見が出ているようにもあります。それは何も対馬に対する意見ではなくて、ダイヤ等に関する意見のやりとりがあっているようにも聞いています。

また、そういう壱岐と対馬との話し合いの中で、これはもしかすると行ってあることかもしれませんが、現在、通っておりますフェリー「つしま」とフェリー「ちくし」の積載車両台数が違うところに着目しまして、ことしの下半期のダイヤにおいては、こちらから発の分をフェリー「つしま」から「ちくし」に変更を九州郵船もしよう。これで10トン車1台でも多く積み込めるような状況をつくっていかうというふうなことで、話は現段階ではまともな状況です。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） ぜひ、対馬島民、漁民が困っているということを市長は把握してもらいながら、進んでもらいたいと思います。よろしく願いしておきます。

次に、2問目の西海の浮き栈橋ですが、市長もよく御存じだと思いますけども、先ほどの答弁をお聞きしておったら、非常に小さいというのは市長も認めていただいているようにあります。私たちも西海漁協にはよく行くのですが、やはりあそこは昔から魚類養殖には本当に真剣に取り組んでいる漁協の1つだと思うのですよ。しいて言えば、対馬で一番、平成9年やったんですか、対馬市が300億の水揚げがあったときに、魚類養殖で40億ちょっと残ったときがあるのですが、やっぱり西海漁協さんが一番中心になって、魚類養殖は対馬ではやってきているわけなのですよ。

そういう中で、今、先ほど言うように、私たちもよく行って大変やなと思うのが、小さい狭い浮き栈橋で漁協のほうからフォークリフトで行ったり来たり行ったり来たりやっているわけですよ。それを見ておったときに、これだけ一生懸命やっている漁協で、よく常に言われるのが費用対効果というのをよく言われますよね。本当に費用対効果を考えてられるなら、あれだけ頑張っている西海漁協であり、組合員であるわけですから、あの小さいのはまだ耐用年数が、聞けば50年、まだ21年ですからかなりあります。どこかまたほかに小さいやつを回してでも、大きい浮き栈橋を新設してもらって、そしてなおかつ今の時間短縮を、えさの積み込みに短縮できるような方法をとっていただきたいわけなのですよ。

何か今工事が途中で終わって、荷揚げ場ですか、その件で私も西海漁協の組合長さんとお聞きしましたら、あそこをLで切ってもいいよと、それは県との話し合いでどんなになるかわかりませんが、組合としては形はどういう形であろうが対応できますよと、対処しますよと、その浮き栈橋をとにかく大きいのをつくってもらいたいというのが今の西海漁協の組合の要望であることですが、市長、そここのところで。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 整備途中で終わっている部分というのが、今、大部議員さんがおっしゃられるように、すべてクリアしてしまっているならば、県のほうも取り組みやすいのかなというふうにも思います。そこについて、県とも調整を進めていきたいと思います。

西海漁協そのものにつきましては、大部議員がおっしゃられるように、一生懸命取り組んである実態は把握はしております。そういう中で、きょうのニュースでも出ておりましたけども、EU、アメリカがクロマグロの輸出をとめてしまうというふうな状況も見えておるようなことで、今、進めておられます養殖マグロ等の恐らく需要はこれから先伸びていくのではないかと思います。まさしく費用対効果と考えたときに、そのあたりはペイできるのではないかと私自身も思います。

以前、黒岩組合長のほうからもそのあたりのお話があって、私も現地を見た次第です。どうか進めなければいけないという思いはありますので、管理者であります県のほうにしっかりとこのことは伝えていきたいと思っておりますし、恐らく養殖マグロを推進しておる県ですので、そのあたり理解はしてもらえるものというふうに私自身は考えております。漁協のほうと一緒にってから取り組んでまいります。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） ぜひ、そういうふうに取り組んでもらえるような体制をとってもらいたいと思います。

私も水産業で同業者ですけども、魚の積み込みがおくれれば、どうしても1日にやる量というのは決まっているのですよね。でも、時間との戦いで、1日で500箱消費しなくちゃいけないやつは、時間がなかったら、例えば400に落として1日をやるということになれば、どうしても魚の成長がおくれてくる。いろんな魚の時間帯があんまりずれると、空腹感を持たせると、やっぱり魚が船を見ただけで、今度えさを食わせてくれるということがわかっているものですから、ゆっくり泳ぐやつが、最初の1発目にえさをやる時間がおくれることによって、マグロなんか時々がっと渦を巻いて走り回るわけなのですよ。そういうトラブルも出るものですから、やっぱり生産者は決まった時間帯に同じようにやりたいというのがあるのですね。そういうわけで、私もよくわかるものですから、こういうお願いもしよるわけです。

そしてまた、先ほど市長が費用対効果はちゃんと認めているよというような答弁ですし、あそこの組合員数が幾らやったですか、155名、その中でやっぱり14億からの水揚げがあつていましてよね。私たちの美津島漁協は、自分の漁協のことを言ったらまたしかられるかわかりませんが、今では700名弱ですけども、20億ぐらいの水揚げなのですよね。それから考えれば、いかにやっぱり西海漁協は組合員が真剣に養殖業に取り組んでいきよるかというのがよくわかる

と思うのですよ。

ことしは、また昨年よりも数多く経営者が増えて、何人か増えていますものね。増えているし、放養尾数も数を持っていますよ。だから、今のことしの本当に秋口が、一番水温が二十二、三度ぐらいになってきたときが一番安全パイでえさをやれるものですから、一生懸命やろうとするわけですけど、そうなればどうしてもえさの量が加算しますから、早く行った船とおくれた船というのがかなり時間差が出ると思いますので、市長、そここのところでぜひ県との交渉をして、車ごと、それこそぱつとつけて、本当10分でも20分でも早く漁場に走られるような態勢を整える浮き桟橋をぜひお願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 対馬のマグロが、対馬の水産物が市場で全量新鮮なままはけるように、しっかりこちらも取り組んでいきたいと思えます。わかりました。

○議長（作元 義文君） 18番、大部初幸君。

○議員（18番 大部 初幸君） ぜひ、市長、これが現実化が一日も早くできるようにお願いしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで大部初幸君の質問は終わりました。

.....

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。2時15分から再開します。

午後2時05分休憩

.....

午後2時14分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） こんにちは。1番議員、会派協働の脇本でございます。

さて、当選1年目最後の定例議会に当たって、昨年の市議選中、市民の皆様あてにお送りした立候補のごあいさつはがきに掲げた4項目について、先におさらいしてみました。

1番目の対馬の均衡ある発展については、交通体系の整備改編が重要との観点から、9月と12月の一般質問で、JR高速船の比田勝港寄航による経済活性化案の提案をいたしました。昨年末には、地元有志による「比田勝港にJR九州のジェットフォイル就航を実現する会」が設立され、市は内閣府あてに国際線国内線混乗特区の申請の相談をしていただきました。しかし、関係法制度の壁は厚く、よい回答が得られませんでした。施政方針にもあったように、官民協働でこれからも粘り強い交渉の継続を期待いたします。

2番目の核関連施設誘致に断固反対については、9月の一般質問で市長より、高レベル放射性

廃棄物最終処分場の誘致に関して、従来どおり否定的見解の回答をいただきました。施政方針に示されたように、この問題に限らず、環境王国の称号にふさわしい姿勢を今後とも期待いたします。

3番目の対馬の特性を活かす産業育成と雇用確保については、水産業の再興、顧客ニーズに対応した観光事業の展開を具体策として提示していました。今回は、残されたこの項目について質問します。

4番目の住民自治理念の醸成・普及については、その促進策として、9月の一般質問で、生活基盤を中心に、本所から地域活性化センターへの権限移譲と職員の出身母体帰庁を提案しました。上対馬地域では、西泊地区等一部で地域マネージャー制度が動き出した地区もありますが、まだ本格稼働したとまでは感じていません。制度趣旨を理解し、意欲あるマネージャーが近隣に多く居住する地区の動き出しが早くなると思いますので、上記提案の早期取り組みを期待いたします。

さて、本日の質問の内容です。

1番目に、水産業振興の取り組みについて、1、海洋保護区設定に向けた取り組みについて。

海洋保護区設定をめぐる島内の最近の動きとしては、1月23日に上対馬町漁業協同組合漁民代表が、赤松農林水産大臣あてに大中型まき網及び沖合底びき網漁業操業区域許可の見直しについての要望書を、来島中の山田農林水産副大臣に直接提出しました。また、2月8日に来島した現中村長崎県知事と対馬市議会議員有志の会が、海洋基本法に基づく対馬周辺海域における海洋保護区域の設定について、政策協定を締結しています。

国際的な動きとして、本年10月には名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開かれ、海洋生態系保全に向け新たな枠組みが決定される予定となっています。

対馬市も、清野聡子東京大学助教の指導のもと、このような対馬の海と漁業を未来につなぐ海洋保護区の可能性の検討というプロジェクトを進行中のようです。大型まき網や底びき網漁業の乱獲によって、島内の漁業者は窮地に立たされて久しくなります。市として、政府への海洋保護区設定に向けた具体的働きかけや、その進捗状況等をお聞かせください。

次に、2番目、いそ焼け対策の取り組みについて。

本年1月23日に、対馬市交流センターで開催されたシンポジウム「森里海連環学 対馬から林業再生を考える」は大盛況でした。特に、京都大学社会連携教授C. W. ニコル氏のユーモアあふれる基調講演は興味深いものでした。昨年末にニコル氏と同じ肩書きを持つ畠山重篤氏の「鉄が地球温暖化を防ぐ」という本を地域の方に勧められて拝読していたので、講演内容がより素直に理解できました。本の帯には、「海に鉄をまく！？いそ焼けで荒れ果てた海が鉄の力で生命力あふれる海の森に・・・」と記載されています。

著書の中で、畠山教授の理論を低コストで実践している宇部市の発明家杉本幹生氏が紹介され

ています。これを対馬でも実践できないかと思い、早速杉本氏にアポイントをとり、1月末に清風会、公明、協働の3会派議員7名で政務調査に行っていました。杉本氏の取り組みは、先般、小学館の「小学4年生」3月号に、「海のサプリメント鉄炭団子で海がきれいになった」と題して、わかりやすく掲載されています。

島内でも、魚介類のえさになったり、隠れ場所、産卵場所となる海草が減少し、海の砂漠化が進んでいます。栄養素が豊富にあるだけでは、海草は育ちません。海草が減少した主な原因として、杉本氏は鉄イオン不足に注目しました。従来は、川などを通して地中に含まれる鉄イオンが海に運ばれていた際、広葉樹林でつくられた腐葉土に含まれるフルボ酸と結合し、植物プランクトンに吸収されやすいフルボ酸鉄の形になって海に供給され、海草が育ちやすい環境が保たれていました。

しかし、森林は腐葉土をつくらない針葉樹の植林が進んだ上に、道路の舗装や護岸工事で鉄イオンがせきとめられ、鉄イオン不足となった海には海草が育たなくなってしまったというのです。杉本氏は、30年の年月と私財を投じて、鉄イオンを低コストで発生させる仕組みを2つ考案されています。

1つ目は、スチール缶と竹炭を結合させて、乾電池の原理を応用したものです。この方式は、畠山氏の著書の島内の読者が既に実践し始めた例もあり、効果が早速上がっているということです。空き缶を島外に輸送する費用を転用して、間伐材を利用した炭と結合させてつくることができないでしょうか。

2つ目は、使い捨てカイロを利用した鉄炭だんごです。その実物がこれです。この方式は、数年来、毎年、赤潮に悩まされていた愛媛県宇和島地区でまいたところ、次の年から赤潮が発生しなくなったという効果が報告されています。総合的学習の時間を使って子供たちにつくってもらい、漂着ごみ回収のボランティアに参加した後、鉄炭だんごをまいてもらえば、素晴らしい環境教育の教材にもなると思います。

対馬の漁業者の多くは、農林業者でもあります。自己資金で除草したり肥料をやることは、漁業では漂着ごみ回収や鉄炭だんごをまくことに当たると考えれば、漁業交付金を漂着ごみ回収の日当ではなく、この事業の費用に振りかえることへの抵抗は薄れるのではないのでしょうか。

ところで、2009年の対馬周辺の高齢化事故が過去5年間で最多の34隻となり、前年から倍増していると、対馬海上保安部の報告が2月26日の長崎新聞にありました。不漁続きで、時化に無理をして出漁せざるを得なくなったことや、あるいは9月の大部議員の一般質問の指摘にもあったように、漁師の高齢化も事故多発の原因の1つではないのでしょうか。

対馬海上保安部交通課に分析をお願いしました。その結果、3マイル以遠での事故が6隻、事故者の平均年齢が63.4歳、60歳以上の事故者が10人と初めて2けたになるなど、過去最

高を更新しています。先ほどの懸念が、的外れではないということがうかがえると思います。高齢の漁師が沖合まで出漁せずとも糧を得られるほど、沿岸に魚介類が戻ってくるような施策を講じる必要が高まっていると思います。

御存じのとおり、シェルナースや鉄鋼スラグによる藻場造成事業も全国各地で実施されていますが、それぞれ効果に疑問を呈されたり、かえって有害であるという研究結果も多く発表されています。これらの漁礁から溶出する有害物質は、食物連鎖の頂点に位置する人間に長年にわたって生物濃縮により蓄積します。現段階では、環境や生物にとって安全が保障されているわけではありません。また、コスト面から、身の丈に合った事業なのかとの検討も必要です。環境王国を冠する対馬においては、まず特許所有者の杉本氏に来島していただき講演してもらい、安心安全で初期投資が低コストな上にメンテナンスフリーという、この杉本方式の実施を検討してみてもどうでしょうか。

次に、大きな2番目、観光事業の振興の取り組みについて、観光客誘致に向けた航路活性化の取り組みについては、先ほどの質問とも関連しますし、産業建設委員会や国県道整備促進委員会でまた報告もあるようですので、割愛させていただきます。

2番目の対馬PRに向けたメディア戦略の取り組みについて、対馬市福岡事務所のメディア戦略について。

本来であれば、特産品や観光客増加に直結する観光商品、観光ルート等を福岡事務所はメディアにPRすべきだと思います。しかし、売り込むものの選定や観光商品の確立が図られていないのが、対馬の現状だと認識しています。施政方針で、推奨商品の基準の確立や観光ガイド養成を継続的に行うとのことから、市長の認識も同様であるとうかがえます。市長がおっしゃるように、まずは対馬という地名の認知度を上げることに、メディア戦略の主眼を置くべきだと思います。

現在、KBCラジオのスポンサーになり、2月から3月まで毎週水曜日に8回、対馬のCMを流しているようです。島民はもちろん、島外の対馬人、さらには対馬人以外の方からの反響も好評のようです。また、CM以外でも、「とんちゃん部隊」やアナゴ料理など、メディアへの露出も多くなってきています。このことから、メディアとの人脈も構築されつつあると思います。せっかく培った人脈を途切れさせては、投資効果も薄れてしまいます。ラジオCMであれば、数十万円程度の経費でしょう。来年度予算には計上されていないようですが、投資効果を上げるためにも継続を検討されてはいかがでしょうか、市長の見解をお尋ねします。

2番目、新たなメディア戦略の展開について。

1月末の政務調査では、捕獲イノシシの解体・加工施設「やまくじら」と、自治体PRメディア戦略研究のために、武雄市役所を訪ねました。樋渡武雄市長は、「市長」と入力し携帯で検索すると、約10万件の中で「武雄市長物語」というブログがトップに来るほど名物市長です。み



ずからフジテレビへ飛び込み営業を行い、「がばいばあちゃん」のテレビドラマのロケ地を誘致したことや、「いのしし課」や「がばいばあちゃん課」など、ユニークな名称の部署を設置したことも、メディアを巧みに利用して知名度を上げました。

先日の2月20日には、「がばいばあちゃん2」が放映され、TNCの視聴率は19.7%と、同時間帯他番組を大きく引き離す高視聴率でした。ちなみに、武雄市独自の電話による市内視聴率調査では、83.2%と驚異的な結果です。放送日翌日の日曜日には、ロケ地周辺の道路が渋滞するほどにぎわったそうです。

ロケ地誘致による市民の地域に対する誇りや一体感の醸成という社会的効果、知名度向上という宣伝効果、ロケ実施による直接的経済効果、さらには観光客増大による消費需要の増大効果ははかり知れません。

先日、アジアからの観光客でにぎわうニセコスキー場の報道がありました。金融危機以前に大量に入り込んでいたオーストラリア資本にかわって、中国の個人海外旅行解禁に伴い、中国資本が席卷しているという内容でした。中国では、個人海外旅行を題材にした映画が流行し、興行成績1位のニセコがロケ地となった映画で登場した普通の居酒屋が、大繁盛している場面も放映されていました。対馬でも、ドラマや映画の題材となる資源は豊富にあると思います。ロケ地誘致に取り組む価値はあると思いますが、市長のお考えをお伺いいたします。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 1点目の海洋資源の保護について、新たな提案等をいただいたところでございます。今現在、海洋資源保護につきましても、いそ焼け対策という視点から、市も県も挙げて一生懸命取り組んでおるところであります。ありとあらゆる制度を活用しながら、集落のほうも一生懸命頑張らせていただいているというふうに思っております。

最近のデータからいきますと、平成9年に漁獲高が257億であったものが10年後の平成19年に147億ということで、約40%の減少というふうにもなっております。このような状況では対馬が生き残っていけないということで、先ほど言いましたように、ありとあらゆる機関、市民の方も危機感を持って取り組んでいただいております。

海洋保護区のことにつきましては、新知事の中村知事のほうと議員の皆様方が政策協定を結んであるというふうなお話を今いただきましたが、大変心強いなというふうに思っております。脇本議員が御存じのように、東大の清野先生とともに、今、海洋保護区の取り組みはしております。1月末に環境省の副大臣田島一成さんのほうを訪ねて行って、この話、対馬市として手を挙げたいし、この秋にありますCOP10までに政府としても1つの方向を出していただけないかということでした。

田島副大臣のお話によりますと、海洋保護区の手を挙げてくださる自治体が今のところない中で、対馬市から逆に挙げていただいたのは助かりますという言葉をしていただいたところでもあります。その後、関係機関等も回って、海洋保護区への取り組みをお話をさせていただいたところでもあります。

漁獲高の先ほど言いました40%減少しているという問題、これについてはやはり私どもの対馬の漁民の方たちが上げられる部分がどんどん減っていて、それ以外に収奪的漁法をされている方の水揚げ高は当然入っていない数字であります。この10年の間に、実は単価も若干落ちていくような状況です。

どうかしてそのあたりの収奪的な漁法をやっている方たちを、私どもは私どもの資源を守るためにしっかり取り組んでいきたいという思いでありますし、ただ排除するだけではなくて、先ほど脇本議員がおっしゃられた杉本先生ですか、杉本先生が提唱されているような、そのような鉄炭だんごでしたか、そういうものも取り組む。今現在は、私どもはEM菌のことから物事に取り組んでいこうということでやっております。

先ほどの鉄炭だんごにつきましては、ある意味、漁業集落の再生交付金等で地域のほうにこういうふうな方法がある、もしくは先ほど言われたように、その先生をお呼びして、皆さんに1回告知していくということも大切かというふうに思います。

そのあたりの取り組みについては、学校現場のほうでも子供たちが今環境ということについて一生懸命考えて、さまざまな取り組みをしてくれています。そういう学校現場のほうに対しても、話を持っていくことも可能かなというふうに思います。

1つの方法としてやれるのだろうと思いますし、鉄炭だんごの話につきましては、今現在、対馬の峰の東部のほうで取り組んでおりますことがございます。同じこと、考え方としては一緒だと思いますけども、フルボ酸鉄を要するに海中に沈設し、そこから出ていく部分で海草をふやしていくという手法もっております。また、ありねよし1号を水際にどんどん沈設といいますか、埋めていっていると。そして、潮でどんどんありねよしの養分をいそ場に流し込むという方法で、唐舟志と女連と豆殿とでしたか、取り組みもやっております。

昨年の秋ぐらいから始めたものですから、それとの関連で、今これだけの効果が出ているということにはすぐ言い出しはできませんが、藻が戻ってきているところもあります。この経過もきちんとモニタリングしながらやっていきたいと思っておりますし、私どもの処理場から出てくるありねよしの分については、農林副大臣のほうからも高い評価を受けたところでもありますので、しっかりと取り組んでいきたいというふうな思いであります。

さまざまな手法があろうかと思えます。いそ焼けの問題については、ある人に言わせると、簡単に言えば温暖化の影響だと言われる方もいらっしゃいますし、いや、違うと、食害の問題、そ

れが大きな問題だと言われる方もいらっしゃいます。諸説紛々ありまして、どれがどうだという答えはないみたいにあります。少なくとも私ども、先ほど食物連鎖の頂点に立つ人間がどうしていくかというお話がありましたが、私どもその頂点に立っている人間の人のほうから取り組みをEM菌を使ったことでやっというこ、EMだんご等も河川等に投入することによって、いその回復にもつながればというふうな思いを持って、施政方針でも言いましたように、島民みんなが取り組まないと、うまいこといかないという思いもありますし、当然、林業との兼ね合いも出てくるというふうな多岐にわたる部分から、いそ焼け、海洋資源の問題についてはしっかりと取り組んでいきたいというふうに思っております。

何かすみません、どこか漏れたら申しわけございません。

それと、観光振興に向けた取り組みの中のメディア戦略についてお話がございました。協本議員が既に調査をされているとおり、今現在、KBCラジオ等でこの2月、3月、しっかりとやっておりますし、私どもだけではなくて市民の方もそこに参加していただきながら、一昨日は「とんちゃん部隊」の斎藤君が、私が後で見ましたら8分12秒出ていたようにあります。ラジオというので、8分も使って対馬のことととんちゃんのこと、さらにとんちゃんを食べさせるために、武末福岡事務所の所長もラジオの中に出演し、皆さんと対馬を売り込んでおりました。

そして、一昨日は、この8月13日にやはり大丸裏のエルガーラですか、パサージュ広場で行われるラジオフェアですか、何かそういうものに参加をするのだと、部隊は参加するということが宣伝も行っておりました。いろんな方たちが、こちらが設定をしましたというメディア戦略の中に入ってきていただいて、自分らを、そして対馬を売り込んでもらうということがすごく大切だというふうに思っています。

もう一つの観光客の誘致のお話もございましたが、これについては何度も言いますが、対馬学への招待ということで、対馬のことを福岡市民、福岡市周辺の方々にしっかりわかっていただきたいと、わかった上でこちらに来ていただきたいという思いで組み立てておりますし、今も旅行社の方々とそこに受講されている方々をどのようにこちらに引っ張りこんで——言葉が適切ではないですね、どうして来ていただくかということに、今、策を練っているところであります。

新聞社もそうですし、ラジオもテレビもそうですが、向こうもニュースソースを欲しがっている部分も当然ありますし、こちらもそのあたりをお互いウイン・ウインの関係で物事がやっけるようにおつき合いもしていきたいというふうにも思っています、そのあたりのやり方については、福岡事務所の職員が一生懸命私にやってくれているというふうに思っておるところであります。

ロケ地の話がありました。よく言うフィルムコミッションという考え方で、樋渡市長の話が出ましたが、恐らく彼はまだ若い40ぐらいの市長ですが、行動力といい、アイデアといい、頭脳

といい、正直言って九州でナンバーワンの男だろうと私は思っています。戦略も持っています。一応市長会では仲よく懇談はいつもしているのですが、正直言いまして、彼ほどの能力を私は持ち合わせていません。あそこまでの戦略家にはなっていません、私は。しかし、身近なところでいつも見る機会がありますから、樋渡君みたいな人間に自分自身も早いうちにならなくてはいけないという思いではおります。そのあたりはしっかり取り組んでいきます。

ロケ地の問題については、韓国のほうから昨年ですか、一昨年でしたか、ロケ地として使われるとか、いろんなことは取り組みの中で出てきてはおりますけれども、なかなか難しい部分があるのかなと。もっともっと、施政方針で言いましたように、都会とのある意味地域差の顕在化みたいな部分を表に出していくことによって、ロケ地の誘致等がもっとできるのかなというふうにも考えております。

それ以外は何かありましたか、よろしいですか、まずは。申しわけございません。

○議長（作元 義文君） 1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） 丁寧な御答弁をありがとうございました。

まず、樋渡市長の話をちょっとされましたので、今度の施政方針の中でもありました坂本龍馬の話があったのですが、私は市長自身が坂本龍馬になる必要はないだろうというふうに思っています。市長の仕事としては、対馬各地に坂本龍馬を育ててあげていただく、それが市長の仕事だろうというふうに思っています。あえて言うなら、幕末に下級武士だった西郷隆盛や大久保利通、そして坂本龍馬、脱藩藩士を物心両面から支えていった薩摩の小松帯刀のような、そんな役人を地域マネージャーの中から出していただくような、そういう努力をしていただきたいと思います。

今、西泊あたりでも動き出していますので、それが波及していけばいいかなというふうに思っています。協力してやっていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

いそ焼け対策のことについては、詳しく答弁がありましたので、1点だけ、鉄を海にまくということは、御存じのように、地球温暖化の原因と言われている二酸化炭素の発生を抑制する効果も期待できます。鉄イオンを供給することで、海草類の光合成を活発化させて、二酸化炭素の消費を促進していきます。また、植物プランクトンが発生することは、貝類の増殖にもつながっていきます。貝殻は炭酸カルシウムの塊であり、二酸化炭素を貝殻の状態海中に固定できます。

日本の島で最も長い海岸線を持つ対馬で本格的に取り組めば、市長がいつもおっしゃっているカーボンオフセット、この島の構想にも資する効果が大きいと思います。二酸化炭素排出量の取引価格が下がってきてはいますが、田舎らしさを発揮するには重要な構想だと思います。こうした視点からも、いそ焼け対策を杉本方式等の検討をもう一度お願いしておきます。

次に、ドラマ誘致についてなのですが、観光ガイドの養成について、今後の計画をお聞

かせいただきたい。これはメディア戦略の1つにもなってくると思いますので、市長は就任2年以内に、観光ガイド組織を構築するというを公約に掲げていらっしゃいました。対馬観光ガイドの会「やんこも」の大活躍や、この3月4日には北対馬観光ガイドの会「うみてらし」というものも設立されました。中地区でもガイド養成講座が好評で、市長の公約は立派に達成されつつあるのではないかなと思っています。今後とも、対馬PRに活躍いただけるガイド組織の充実発展に御協力いただきたいと思いますが、その点について回答をいただきたいと思います。

とりあえずここまで、お願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 龍馬の話が出ましたが、龍馬は若くして死にますので、できれば地域マネージャーは龍馬になってもらわなくて、私一人でいいのかなと思っております。それよりも、職員は大久保利通、もしくは伊藤博文みたいに、しっかりと最後の国づくりに取り組んでもらえればよいというふうな考え方で、犠牲的精神で龍馬にと考えておりませんので、御理解のほどを、決してこれは私が書いた句ではありません。他人様が書いた句ですので、御理解のほどをお願いします。

それと、いそ焼けの問題でございますが、今、取り組んでいる部分、多岐にわたっております。そういう中で、新しい提案というふうな考えで受けとめておりますし、農林水産部の所管しております再生交付金の事業の中でも、恐らく集落等に提案をしていける事業だというふうにも考えます。そのあたりの取り組みは、積極的にやっていきたいと。

なぜならば、いそ焼け対策の100%これがいいんだという正解は今のところ見出していないと思っておりますので、ありとあらゆる可能性があるならば、しっかりとやってみるということが大切だというふうに思っております。

次のガイド養成の件につきましては、今何名という話に計数的なものは担当部長のほうからお答えさせますが、「やんこも」、それから上のほうの「うみてらし」ということで、徐々に観光ガイドが島内を動き始めているというふうにも思っていますし、また今月来ます埼玉の高校修学旅行がたしか4つぐらいのメニューがあったと思いますが、それに応じて観光ガイドが別々に動いていくと、対馬の観光ガイドが対応していくというふうな、それも大変うれしい話だなということで、私は報告を聞いておりました。

これから先、市民の皆さんがそういう形でしっかりと取り組んでいただくことによって、おもてなしというふうな部分も充実していくのだと思っております。その中で、対馬のよさを観光ガイドの人たちがまた発信もしてもらえるものというふうに思っております。今後も、しっかりとそのようなガイド養成等々には力を入れていきたいと考えます。

以上です。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 観光ガイドの組織についてということでございますので、お答えいたします。

現在、厳原地区におきましては、「やんこもの会」という組織がございまして、これに大体登録者が27名、それからこの21年よりふるさと雇用によりまして、中対馬地区と上対馬地区でガイドの養成講座を行っております。一応、中対馬地区におきましては14名、上対馬地区においては16名、これはいずれも対馬観光物産協会の事業としてとり行っております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） 坂本龍馬のことについてもお答えいただきまして、ありがとうございました。私は、役所の方に坂本龍馬になってほしいとは言っていませんので、同じ短命だったのですが、小松帯刀のようになってほしいというふうに申しました。ただ、成人式で市長が言われたように、長く生きるのではなく、いかに人のために生きるかというのが大切だということですので、それも申し添えておきます。老婆心でした。

続きまして、観光ガイドの件ですけれども、あと2年間、たしか養成時期があると思います。その後、ある程度そこまで自立してできるような組織を目指して頑張っていらっしゃる、それぞれの方も頑張っていらっしゃると思いますが、その後の支援のほうもよろしくお願ひします。

それから、少し時間があるようですので、ドラマのことについて、題材についてこういうのはどうだろうかというのを考えたものがありますので、幾らか紹介させていただきます。

豊臣秀吉の朝鮮出兵の折に、義の立たない戦に嫌気が差し、兵を率いて朝鮮に降伏した沙也可という人物が、朝鮮の古い漢文「慕夏堂記」に登場します。沙也可は武功を重ねて、王寵をこうむって高官となり、土地を賜って、その族党、家臣が一村をなし、無事泰平の世を楽しんでいると記されています。この沙也可は、司馬遼太郎氏の「街道をゆく2 韓のくに紀行」で紹介されて有名になりました。

司馬さんは、沙也可の上陸日が小西行長軍のそれであること、またみずからを「島夷之人」、島の人と称し、当時、日本では儒教的考え方を持っていたのは対馬だけですけれども、儒教的教養も見られることから、沙也可を小西軍に属し、かつ朝鮮とも関係が深かった対馬の宗義智の支配下の武士だったのではないかと推理しています。これは全然歴史的事実とは違うかもしれませんが、あの高名な司馬先生がそういうふうに言っているのですから、これを活用しない手はないかなと。NHKのテレビシリーズ「街道をゆく」でも紹介されています。

自分が売りたいものを売るのでなく、お客が買いたいものを売るのが商いの鉄則です。韓国人が、今でも断トツで最も嫌いな日本人として上げているのが豊臣秀吉です。それに反旗を翻

した人物が対馬の人だという説に沿った題材であれば、多くの韓国人から大きな興味を引くことができるのではないかと思います。

それから、年末、NHKのドラマで「坂の上の雲」が放送されています。来年になりますね、ことしではなくて来年末、多分、対馬沖海戦も取り上げられるでしょう。ロシア兵を集落挙げて手厚く介抱した西泊住民の義行や、陶山訥庵先生のイノシシ退治も、ドラマの題材にふさわしいと思われます。市民の誇りや一体感の醸成など、「がばいばあちゃん」にもまさるとも劣らない効果を生み出せるかもしれません。

先日、3月7日、地域の魅力などを紹介する「NCCふるさとCM大賞」のグランプリに、加志々中学校の「僕らがつくったかるたの旅IN対馬」がグランプリを受賞しているようです。PRに大きく貢献してくれるのではないかと期待しています。

そのほかにも、今、観光物産推進本部が力を入れてつくっていただいた「孝行めん」、このPRの際に、原料のサツマイモを対馬に持ち帰った原田三郎左衛門の紙芝居とか、そういうものをつくったり、あと市民劇団による上演をまずやって、マスコミの関心を引いて、マスメディアに載せるというステップも考えられるのではないかなと思います。

そういう点について、何か御意見があればお聞かせください。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私と若干、沙也可の問題については認識が違ってしまっていて、沙也可は私には対馬ではなくて、私はたしか和歌山の出身だというふうに自分が読んだ本では記憶しておりますが、何はともあれ対馬を通して朝鮮半島のほうに入り、そこに住みついたというふうなことだろうと思います。

幾つかのアイデアをいただきました。その中で、私自身はいつの日か、あれは二十四、五年前ですか、白石一郎さんが直木賞をとりました「海狼伝」なんかは、まさしく対馬を舞台にした、そして海のドラマですし、大変いい題材だというふうな思いは常に持っております。最近、白石一郎さんの息子さんも直木賞をとられましたし、そのあたりで対馬がどうかして脚光を浴びないかなというふうな思いも持っております。

今、「坂の上の雲」は確かにことしの11月、12月ではなくて、来年の11月、12月の際に、当然、秋山真之が主人公となって動く場面だろうと思いますし、対馬ウオーとしての世界的に認識されております日本海海戦をしっかりと私ども売り込んでいくチャンスというふうには認識を持っております。

また、市民劇団のお話がありました。先日、3月7日でしたか、日曜日に市民劇団が初の公演をしました。自分らが書きおろした「絆」という、20分ぐらいの演目でした。黒田議員と長議員がずっと見ていただいておりますが、しっかり取り組んでいただいているなと思

いますし、今現在、頼んでおりますジェームス三木さんですか、のほうで朝鮮通信使に絡んだ脚本等も今書いていただいているというふうにも聞いております。さらには、夏ぐらいに向けて別の脚本も書き上げていただくというふうな、対馬を題材にしたことで脚本を書いていただくというお話も進んでいるというふうな報告も聞いておるところであります。

最初の答弁ではございませんけれども、いろんなメディア等のつながりを持ちながら、対馬の歴史とか文化とかいうものもきちんと発信していけるように、つながりをきちんとつくっていききたいと思えます。

以上です。

○議長（作元 義文君） 1番、脇本啓喜君。

○議員（1番 脇本 啓喜君） ありがとうございます。私の愛読書の一つに、孫子の兵法というのがあるんですけど、その中に一つ、特に自分がまだ若いものですから、と思っていますから、そういう人たちを生かしていただきたいということで一つだけ。「将能にして君御せざる者は勝つ」という言葉があります。若い人——将ですね——に自由に発想してもらって、活躍してもらって、肝心なところだけ上の人が指示をする、そういうことを言っているんだと思います。

先ほど申しましたように、坂本龍馬みたいに短命では困りますけども、対馬各地に坂本龍馬を育て上げていく、そういうことを理事者側で一生懸命押していただきたいということをお願いして、本日の質問は終わらせていただきます。

○議長（作元 義文君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

.....

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を3時10分から。

午後3時02分休憩

.....

午後3時10分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、6番、松本曆幸君。

○議員（6番 松本 曆幸君） よろしくお願いをいたします。新生クラブの松本曆幸です。初めて一般質問をいたします。どうぞよろしくお願いをいたします。

財部市長におかれましては、平成20年3月に就任以来、大変厳しい財政事情の中に、健全財政に向けて努力なされておられることに感謝を申し上げる次第であります。市政を預かりちょうど折り返し点となります。今後も厳しい行政運営が続くかと思われませんが、市長のスローガンでもあります「対馬よみがえり宣言」「対馬改進黨」に向けて、さらに頑張ってくださいますようよろしくお願いをいたします。



先日、市長のブログを拝見いたしましたけれども、ちょっとお疲れのようでしたから、健康管理には十分留意をなされて御政務いただきますようによろしく願いをいたしておきます。

本日は、4点について質問をいたしたいと存じます。よろしく願いをいたします。

まず1点目に、対馬市ミュージアム建設構想について、対馬の文化的拠点となる歴史ミュージアム建設構想についてお伺いをいたします。

現在、対馬市の歴史資料館は、厳原町郷土館・豊玉町郷土館・峰町歴史民俗資料館・上対馬町歴史民俗資料館と4館がありますが、このうち厳原町郷土館は解体に伴い閉館されるとのことでありますが、残る3館については、いずれもかなり貴重な資料が展示をされておりますが、どの館においても、ただ展示がされているというだけで、資料の収集・調査研究・レクリエーション等に資するための事業はほとんどなされていないのではないのでしょうか。

このため、学術的には非常に貴重なものであることは論を待たないところではありますが、展示物も少なく、いつ行ってもいつも同じものが並んでいるといった状態であります。セールスポイントとして、来館される方にいませいインパクトが弱く感じられます。広い意味での観る、魅せる、学ぶという観光振興の面からも、いまいちの感がいたします。

平成21年度対馬市教育要覧では、対馬市教育努力目標でも文化遺産の保護と豊かさをはぐくむ文化の創造がうたわれております。また、教育委員会各課の重点施策として、長期的課題の中で「交流の歴史・伝統的民俗・育まれた自然を網羅した博物館を関係機関との連携を図りつつ、その実現を目指す」とあり、具体的推進施策として「文化財資・史料の整備充実と展示施設活用の促進」では、「対馬国際ミュージアム（博物館）の設置促進を図る」とあります。

厳原町郷土館も閉館となります。昭和45年の開館以来、天然記念物の剥製や歴史資料、出土品など、多数展示された小さな博物館がなくなります。非常に寂しい限りです。

そこで、観光振興を始めとする地域振興の起爆剤とするため、また対馬市民が誇りとする文化的なよりどころとして、対馬市の歴史的、自然史的特性を生かした総合的な歴史ミュージアムの建設構想についてお伺いをいたしたいと思っております。

次に、2点目でありますけれども、防犯灯の設置状況と基準についてお尋ねをいたします。

防犯とは犯罪を防ぐことでありますが、犯罪を未然に防止しなければならない場所において、地域からの防犯灯の設置要望にどのようにこたえられているのかお伺いをいたします。

さきの12月定例会において、少しお尋ねをしたところではありますけれども、設定基準と申しますか、どのようなところであれば設置できるのか、まだよく理解できないところがありますので、もう一度お尋ねをいたします。

3点目につきましては、渡海船ニューとよたまの良さ、もっとPRをと係船施設の改良についてお伺いをいたします。

ニューとよたまについては、現在も定期航路の運行とあわせて、不定期航路が浅茅湾めぐりとして周遊観光航路に活用されております。このニューとよたまによる対馬浅茅湾周辺のPRと係船施設の改良についてお尋ねをいたします。

これは長崎新聞の「みんなの広場」欄へ投稿されておりました豊玉高校の藤田毅先生の対馬の観光に対する熱い思いを伝えるべく投稿された記事をそのまま紹介をして質問とさせていただきます。藤田先生におかれましては、対馬の観光を始めとする地域振興に日々御心労をいただき、本当にありがとうございます。

それではまず、平成21年9月13日に掲載されました投稿分から御紹介をいたします。

「渡海船の良さ、もっとPR」と題して、

対馬では市営渡海船が豊玉から美津島間に就航しています。住民の方々の重要な生活航路であるとともに、風光明媚な浅茅湾の観光も楽しめる船です。ことし私の職場では、職員の親睦を兼ねてこの船に乗る会を実施いたしました。海からの和多都美神社など、日ごろと違う視点から対馬を見ることができ、参加した職員や家族は感動していました。さらに、船員や地元の利用客の方々の話から、島の歴史などを知ることができました。また後日、仕事の帰りにこの船を利用したのですが、乗り合わせた観光客は次々と目の前に広がる島のすばらしさを感じ、下船の際には船員の方に何度もお礼の言葉をかけられていました。

ある動物の顔に見える山や海岸の可憐な花など、渡海船でなければ経験できない良さが航路の至るところにあります。

秋は浅茅湾の紅葉も楽しめるそうです。観光協会はガイドブックなどでこの船をもっとPRし、路線バスの連絡改善など、観光ルートとしての整備をすれば、より多くの人に渡海船のよさを知ってもらえるでしょう。また、対馬勤務の県職員は地域を知るため、積極的にこの船を利用してみてはと思います。

とあります。

また、21年11月11日投稿の内容はこうであります。

「対馬の浮き桟橋整備支援して」と題して、

以前も書きましたが、対馬では市営渡海船が住民の方々の重要な生活航路で、豊玉の貝鮎・嵯峨・佐志賀地区はこの船が唯一の公共交通機関です。水崎地区と美津島鶏知の間は陸路で約1時間かかるところを渡海船は30分で結びます。実際にこの船に乗ると、年配の方が通院や買い物で利用される様子を見ることが多いのですが、心配な点があります。それは、途中の貝鮎港に浮き桟橋がないことです。そのため、渡海船は貝鮎港で防波堤に直接設置された岸壁に接岸します。この岸壁は潮位変化に幅が狭いコンクリートの階段でしか対応しておらず、巧みな操船技術と手を添えての補助という2人の船員の方による連携で乗降の安全が担保されてい

ます。また、浮き栈橋がある港でも、栈橋と陸を結ぶ橋や、船からロープをかける支柱がひどくさびているところもあります。本土では、バリアフリーのために低床バスの導入などが行われていますが、渡海船の栈橋整備も目的は同じではないでしょうか。港や栈橋の管理者の問題がありますが、財政が厳しい対馬に対し、島民の安全のため、国や県・各財団などからの温かい支援を検討してもらい、各港の浮き栈橋が整備できないかと思っています。

とあります。

以上が投稿の内容です。

また、豊玉高校の生徒の方も同じ「みんなの広場」欄の学びや写真館に投稿され、ニューとよたまの写真と浅茅湾の写真がよく載せられております。2月4日の長崎新聞では、豊玉高校の写真部が渡海船から撮影した風景写真などを使って作成された「観光パンフレット」が寄贈をされております。本当によい対馬のPRになっていると思います。このような対馬のよさを愛する市民の方の思いに対して、ニューとよたまの良さと浅茅湾周遊のPR、定期航路における港の係船施設の改良についてどのような思いを持たれておられるのかお伺いをいたします。

4点目に、豆酩崎公園の通年管理についてお伺いいたします。

御存じのとおり豆酩地区は日本の里100選にも選ばれた風光明媚な地区です。この豆酩地区の最も南に位置します豆酩崎は、対馬の中でも屈指の景勝地であります。年間を通してかなりの観光客が訪れられておると思います。当公園は自然公園法の国定公園第2種特別地域に指定され、「良好な自然状態を保持している地域で、農林漁業との調和を図りながら、自然景観の保護に努めることが必要な地域」とあり、園地、野営場として利用がなされております。

しかしながら、必ずしも公園全体においてしっかりとした管理、整備がなされておられるかと言いますと、ちょっと首をかしげたくなるところでございます。市道美女塚線・市道尾崎山線の管理とあわせて、1年を通してどのような管理形態であられるのかお伺いをいたします。

以上、4点についてお伺いをいたします。どうぞよろしくお願いをいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 松本議員の質問に答えさせていただきます。

よみがえり宣言ということで、うたって、私それに向かって一生懸命再生のためにと考えて取り組んでいるところですが、ただし私だけ動いても無理がありまして、ここには必須条件がありまして、施政方針でも申し上げましたとおり、島民の方々も同じ思いになっていただいで、一緒になって動かないとよみがえりはなかなか難しいと思っております。そういうふうに議会とも一緒になって動きたいというふうに思っております。

まず1点目の歴史ミュージアム建設構想についてであります。この3月14日に壱岐市のほうで一支国博物館がオープンいたします。私もこのオープン行事に参加が言ってきておりますの

で行こうかとは思っておりますが、正直言って悔しい思いをしております。

実は、平成8年に国際歴史ミュージアム構想の前身であります計画というのは、一昨日も話しましたが、平成8年に一度でき上がっております。その後平成12年に「日韓コアシティ21」計画ということで、さらにそれを詳細な計画をつくり上げてきたところであります。

また、同様の計画ということで国際交流ミュージアムということで、平成17年度に――年月で言いますと18年3月でございますが、教育長が市長に提言書で答申を行っております。

そういう中で、対馬市の財政状況がまだまだうまく進んでいないという中で、この計画というのは遅々として進んでおりません。私は、この3月14日にオープンします一支国博物館以上に、対馬市はさまざまな歴史資料もそうですが、自然も文化もふくそうしたものを持ち合わせていながら、このようなものがまだできていないことに悔しい思いを持っております。恐らく3月14日、壱岐に渡りますが、また帰ってきて悔しい思いをしながら帰ってくるのではないかと、自分自身は何となく予想ができます。

今後の問題でございますが、この建てることよりも、やはりさまざまな資料、江戸時代の寛永年間からあります毎日記の問題にしてもそうです。

それから、今九州国博の最上階の一番いいところに対馬のものが飾られておりまして、九州国博に訪れる方々の動線の最後は、必ず対馬のものを見て帰ってあるというふうな状況です。

九州国博に二度ほど行きましたが、企画展と常設展があります。その企画展の進め方というのが大変上手であります。で、恐らくどこかが指定管理を受けてやってあるんだろうと思いますが、九州の持ち合わせているさまざまな資料等を魅せ込んでいく企画展のその企画力というものが、大変、館の運営上は試されるというふうに思っています。

通常、私も学芸員はわかっておりますが、実は博物館には「キュレーター」という、日本語ではちょっと言葉がないんですけども、キュレーターという職名があります。で、そういうキュレーターの存在が博物館等の運営には重要な役割を担っているところです。

で、あとの展示のことを考えた上での建設のあり方とかいうものをしていかないと、建設ありきで行った場合、後での展示関係、企画展関係がうまく進まないとお客は呼び込むことはできませんし、観光客も呼び込めないというふうな考え方を持っています。今後そのあたりの運営計画といいますか、展示計画とか、いろんなものがあろうかと思えます。そのあたりをしっかりと詰めていながら、建設ができるような環境整備をしていきたいと自分自身思っておりますし、今島内にあります、今回解体した場合に残る3つの施設になりますが、その施設を含めての企画展というふうなやり方をやっていかないといけないのかなと思っております。

いつも同じような形で展示をしても、人は寄りつきませんので、そのあたり先ほどから何度も言いますように、企画力がある人間をそこに、キュレーターとして雇い込んででもやってい

かないと、うまく進まないものと思っております。何はともあれ、この14日の一支国博物館の今後の運営状況等もしっかり情報収集しながらいきたいというふうに考えております。

次に、防犯灯の基準の問題でございました。設置基準につきましては、類似団体の設置基準をもとに対馬市の設置基準を実は定めております。

まず第1に、小学校の通学路の全般及び中学校の通学路のうち、主要な箇所であること。第2に、道路照明等の光源からおおむね100メートルにわたり照明のない場所であること。第3に、その明かりの光源の場所ですが、当然なんです、間隔は100メートルごとに1灯とすると。ただし、例外措置として、道路が曲がりくねっておりまして光源が届かないところ等がある場合は、その状況に応じて設置をするというふうな基準を設けております。現在、設置要望については、毎年20数件の設置要望があっておりまして、現地調査を行った上で先ほど申しました設置基準に照らして新設を行っておるような状況であります。

次に、渡海船に関する問題、そして係船施設の関係でございまして。松本議員がおっしゃられた藤田先生が新聞のほうに正直すばらしい視点でいつも提言をいただいているなというふうに思っております。また、豊玉高校の写真クラブの子供たちが、渡海船から見る浅茅湾の風景とかいうものを投稿し、それが新聞に掲載されておりますけれども、またあの写真については、先ほどおっしゃられたように、私どものほうに豊玉活性化センターのほうに届けられておりまして、先日地域支援課の担当がCATVのほうに出演しておりましたけれども、その際も豊玉高校の学生さんからもらった写真を使いながら、自分の仕事の説明もしているところでありまして、大変地域の方々、そして子供たちも一緒になって私どもの対馬市全体のことを一生懸命考えてくれていると思っております。

そういう中で、このとよたま丸の良さをということですが、実は昨年からCATVのほうに職員が出てもらっております。私のほうから直接実は指示をしまして、それに出て、とよたまの渡海船の観光事業での収益を幾らかでも上げんといけないということもあり、PRには努めておるところであります。

また、今ゲンカイツツジが咲き始めているはずですが、この時期に渡海船の船員さんたちが、またCATV等に出て、島民の方々に浅茅湾の良さをわかっていただくためのPRはする予定だということで話も聞いております。

で、貝鮎の問題が出ておりましたけれども、貝鮎の分につきましては、この21年度改めて手すり等、設置をしておりまして、利用客の安全を図っております。また嵯峨と佐志賀ですかね、こちらが浮き桟橋が木製というふうな状況もあります。その傷みぐあい等をしっかりと見ながら改修等には安全な状況を確認していきたいというふうに思っております。

次に、豆敷崎の公園の問題でございまして。これは、管理についてはシルバー人材センターと公

園等の維持管理委託に業務委託をする形で管理を今現在しております。シルバー人材センターにつきましては3月から10月は週2回に、それ以外の月は週1回の割合で業務についていただいております。トイレの清掃とか施設内のごみの収集等を行っていただいております。

また、維持管理委託員につきましては、旧巖原管内にある公園のうち12カ所の公園の維持管理をしておりまして、豆敷崎を含む公園内の草刈りや軽微な補修等を行っております。また、ボランティアでも除草等を行っていただいているというふうな報告も聞いております。

今述べましたとおり、この豆敷崎の管理につきましては、限られた予算や人員ではありますけれども、22年度以降につきましても、今まで以上の管理ができるように努力していきたいと思っております。また豆敷崎園地に行きます市道美女塚線や尾崎山線につきましては、毎年除草作業等を実施をし、21年度は道路上に覆い重なっております樹木の伐採も行っているところであります。今後もうできる限りパトロール等を実施し、車両の通行の安全管理を確保していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 6番、松本曆幸君。

○議員（6番 松本 曆幸君） 質問が4点ほどいたしました関係で、時間がないようでありますので、簡単にもう一度ずつ質問をいたしたいと思っております。

先ほどのミュージアム建設構想については、いろいろ市長の考え方などについては十分理解ができますけれども、建設の構想に向けたちょっと考え方といいますか、そのあたりがちょっとまだよく聞こえてこないような感がありますので、もう一度お願いしたいと思っております。

それと、先ほどおっしゃられました18年3月の宗家文庫資料等保存施設計画策定委員会の中から提言がされました中に、対馬市に対して、平成17年3月に対馬国際交流ミュージアム（仮称）設置構想中間提言が作成され、対馬市もこれを受けて委員会の意図は十分理解したと回答されたとあります。その後において、市は何か取り組みがなされたのかどうかを1点お伺いしたいと思っております。

それと、防犯灯の設置状況でありますけれども、実はこれは豆敷の区長会の太田会長さんより借りてきたものなんですけれども、その中に、市に対して道路改良などの要望とともに、防犯灯の設置についてもお願いをしたところではありますが、そのときの防犯灯設置要望についての市からの回答をちょっと読ませていただきたいと思います。

1番目に、NTT柱に設置したいと思っております。2番目に、設置できる柱がなく、予算面からしても設置が困難ですので、設置は見合わせたいと思っております。3番目に、要望箇所と距離が近いため設置ができません。4番目に、御要望の箇所は、夜間は人通りが少ないと思われるので、防犯灯の設置は見合わせたいと思っております。5番目に、道路の終点に位置しており、夜間の利用

者は少ないと思われますので、防犯灯の設置は見合わせたいと思います。

何とぞ御理解くださいいただきますようお願いいたします。

とあります。よくここが理解できないんですけれども。これらの回答によれば、1つには設置できる柱がないところ、2つ目には距離が近いところ、3つ目には人通りの少ないところ、4つ目には道路の終点に位置しているところ、5つ目には予算面から設置が困難というようなことになってしまいますけれども、一体どういうところであれば設置ができるのかということになりますが、あまり防犯意識のないような回答のようにあるんですが、市民の皆様には公平な設置がなされていないということにもなりませんでしょうか。対馬市全地域的にも同じ回答がなされているものと私は推測をいたします。

1点目と2点目がちょっと質問が続きになりましたけれども、よろしくようお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 1点目の歴史ミュージアム建設構想に絡んで17年3月ですか、中間のやつ、その後の市の取り組みはどうなっているのかということでございます。その後、全く動いていないというのが正直な話です。

そういう中で、年次的なものは明示はできませんけども、そのあたりの環境整備をしていかななくてはならないと。何年につくると仮に言ったとしても、つくって言うておりますが、史跡整備委員会の考え方を基本に置きますと、今の県の歴史民俗資料館、それからビジターセンター、それから資料館のあの3つあります、あの全体としてのあの地域が金石城、それから清水山城、万松院、これらの3つの国指定史跡のガイダンス施設としての位置づけもあるから、そこにミュージアムをつくったほうがいいということでもありますので、その考え方をもとに、私自身も持ってはおります。

先ほど言いましたように、年次的なことは明示は、私も今はできませんけれども、財源的な問題等々を考えたときに、私も言いきれないと思いますが、そういう状況が生まれたときに、すぐできるようにするためには、上の施設等を県の歴史民俗資料館を今の建物を収蔵庫としての考え方を生かしながら、どう営業していくかみたいなことも考えなくてはならないと思いますし、用地を今のうちに少しずつ更地化していくことも大事だと思っております。

今のビジターセンターにつきましては、アスベストを含んだ施設ということで、施設としての利用ができない状況にあります。逆に、アスベストを含んでいるために解体するに相当の経費がかかる状況も生まれております。そのあたりもじっくり考えながらやっていかななくてはならないという思いもあります。

また、金石城の入り口としてのやぐら門の近くにありますが、蔵原幼稚園の問題も当然史跡整備委員会のほうから指摘をされ、さらにやぐら門に入った中のプールの問題も指摘をされております。

さらには、その奥にあります体育館、このことも厳しい意見を20数年来ずっと言われ続けている問題であります。この問題を少しずつクリアにしながら、そのガイダンスセンターとしてのミュージアムというのをつくっていかなくてはいけないということがありますので、そのあたりの環境整備をまずきちんとやっていきたいなというふうに思っております。

次に、防犯灯の問題でございますが、これについては、当然私は、言い忘れておりましたけども、設置基準の中には既存の電柱ですね、そういうものを優先をしたいと。で、新設につきましては約6万円ほどの費用が1基当たりかかる状況があります。

そういう中で、年間で約20基程度ずつつくっていった状況であります。予算との関連も当然ございますので、そのあたりを考えた回答だったのかなと思います。すべてを否定しているというわけではないんですけども、先ほど言いましたように、子供の通学路を中心に物事を考えているというふうに考えていただければと思います。

○議長（作元 義文君） 6番、松本暦幸君。

○議員（6番 松本 暦幸君） 対馬市のミュージアムの整備構想については、先ほど来、市長がおっしゃられておりますように、壱岐にも立派なものができます。で、五島市のほうにおいても城郭風の立派な資料館がございます。これ対馬としてもかなりの文化財がありますので、よく活用していただきますように、また活用できる施設を早急に整備されますようによろしく願いをしておきます。

それと、2点目の防犯灯の件ですけれども、もちろん児童生徒が優先されるのはもちろんでございますけれども、やはりそれとは別に、高齢者の方もおられますし、いろいろ不便を感じられておられると思います。そういうしゃくし定規なことでは、先ほども申しましたけれども、ちょっと防犯意識がない中での回答であるような気がしてならないんですけれども、その点について、もう一度、その防犯灯についてお聞かせ願えればと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 防犯意識は、決してそれを持ち合わせていないというわけではないんですが、犯罪が起こってからでは実際遅いわけですけれども、未然に防ぐための措置としては当然考えておりますけれども、現時点において、年に先ほど言いましたような基数を増やしていただいております。全島で電気料だけでも2,000万円を超えております。そして21年度には2,100万円を超えておられるような状況でありまして、そのあたりの問題も含めて取り組まさせていただきますというふうに理解をしていただければと思います。決して防犯に関してないがしろにしているということではございません。

○議長（作元 義文君） 6番、松本暦幸君。

○議員（6番 松本 暦幸君） やはり地域からはかかる場所については危険であることから要望



がっていると思います。万が一つにも起こってはなりません。まだまだ防犯灯の設置の必要性のある箇所はあると思います。要望箇所ならず、昼夜よく調査をされて、犯罪を未然に防止する意味でも、地域の要望にしっかりとこたえていただきたいと思います。

そして、3番目のニューとよたまの件ですけれども、これは先ほど来、いろいろと御説明をいただきましてありがとうございます。いろいろニューとよたまの件と、それと係船施設、それと観光振興については、いろいろ御腐心を藤田先生がなされておりますので、このあたりについてはしっかりと受けとめていただいて対応していただくようによろしく願いをいたしておきます。

それと豆殿崎公園の通年管理についてでございますけれども、一つだけお伺いをいたします。

私が、この通年管理の問題について通告をした後に、現地のほうを一度見られに行かれたのかどうかお伺いをして後の質問にさせていただきますのでよろしく願いをいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私自身は、正直言って行っておりません。

○議長（作元 義文君） 総務企画部長、平山秀樹君。

○総務企画部長（平山 秀樹君） 担当部長といたしまして現地のほうには私は調査に行っておりません。ただ、地域振興課のほうを担当でありまして、管財課のほうが管理のほうになりますけれども、地域振興課のほうで現地には行ったとは私は聞いておりますけれども。

以上です。

○議長（作元 義文君） 6番、松本曆幸君。

○議員（6番 松本 曆幸君） ちょっと私心外ですけれども、このような通告をしとる中で、現地を把握されない中での回答ができるのでしょうか。いかがでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私自身は、そこまで足を正直言って伸ばしてないというのが事実でありまして、内山とかには行ったんですが、それは別件のイノシシがのり面を崩落させているという話があったものですから足を伸ばしましたが、この一般質問に対しての現地には私自身は足を運んではおりません。申しわけございません。

○議長（作元 義文君） 6番、松本曆幸君。

○議員（6番 松本 曆幸君） 私はちょっと気づいた点が10点ほどあるんですけれども、もう時間がないので、主なところだけちょっと紹介をさせていただきます。

この写真をごらんください。これは園地広場のほうに案内板の中で案内がされております。浜のほうにあります休憩所なんですけれども、全くやぶくらの中に建っておりますような休憩所です。途中の道路についても全くこのような状態です。そしてこれら東側のほうにおりる浜と接続する階段です。ひどいものです。これが豆殿崎園地の一番先にあります展望所の下石積みの基

礎です。このような状態です。見えますでしょうか。

それと、トイレが、ドアが、もうぼろぼろです。見るに忍びないぐらいのぼろぼろです。この点を一度見ていただいてからの質問にしたかったんですけども、どうも現場を見られてないようですから、もうこれで終わりたいと思います。現地を今後よく見ていただいて対応していただくようお願いをいたしておきます。

以上で質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（作元 義文君） これで、松本曆幸君の質問は終わりました。

---

○議長（作元 義文君） 以上で本日予定の市政一般質問はすべて終わりました。

明日も定刻より登壇者5名による市政一般質問を行います。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後3時55分散会

---